様式第２号の１－②【⑴実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の１－①を用いること。

学校名	福岡天神医療リハビリ専門学校
設置者名	学校法人　都築学園

１．「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
医療専門課程	理学療法学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	作業療法学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	鍼灸学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	柔道整復学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
（備考）					

２．「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

学校ホームページ（https://dmr.ac.jp/sch/sch05/）学校案内の情報公開に掲載

３．要件を満たすことが困難である学科

学科名
（困難である理由）

様式第２号の２－①【⑵-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第２号の２－②を用いること。

学校名	福岡天神医療リハビリ専門学校
設置者名	学校法人　都築学園

１．理事（役員）名簿の公表方法

学校ホームページ（https://dmr.ac.jp/sch/sch05/）学校案内の情報公開に掲載

２．学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	株式会社取締役	※	法人の運営体制のチェック機能
非常勤	名誉宮司	R5.4.1～R7.3.31	法人の運営体制のチェック機能

（備考）※　評議員の離職をもって理事を辞任と規定しており、理事としての任期はない。

様式第２号の３【⑶厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	福岡天神医療リハビリ専門学校
設置者名	学校法人　都築学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

１．授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書（シラバス）を作成し、公表していること。

（授業計画書の作成・公表に係る取組の概要）

●教育課程（カリキュラム）の編成

前年度の成果の検証を行い、改正の必要性を含み８月頃までに見直しを行う。洗い出された課題等を踏まえ、本校ＦＤ委員会の専門部会である教務委員会で、カリキュラム内容や授業方法等について検討を行い、内容を精査してその改善を図っている。

●授業計画書（シラバス）の策定

改正した教育課程に基づき、１２月頃に各科目担当教員等に対して、学校としての統制事項を含め要修正・整備内容等を通知して２月頃に完成させている。この際、確かな実力を身に付け、国家試験に合格できる実践的な内容構成に着意している。

●教育課程及び授業計画書の公表

確定した教育課程及び授業計画書は、４月初旬にホームページで公開するとともに、校内学生共有のパソコンで常時見れるようにしている。また新入生には、入学時オリエンテーション時に紙媒体で配布している。

授業計画書の公表方法	学校ホームページ（https://dmr.ac.jp/sch/sch05/）学校案内の情報公開に掲載

２．学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

（授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要）

●授業科目に対する成績評価

各学期末の定期試験でその達成度を評価するとともに、学習態度や修学状況を加味して総合的に判定している。科目ごとの評価方法は、授業計画書に記載した内容に基づき行う。100 点を満点とし、100 点～80 点を「A」、79 点～70 点を「B」、69 点～60 点を「C」、59 点以下を「D」（不合格）と定めている。また定期試験受験資格は、各科目総授業時間の 2/3 以上の出席を条件としている。やむを得ない理由により本試験を受験できなかった者には、追試験及び再試験の機会を与えるも、結果的に合格ラインに到達しない者は進級、卒業を認めていない。

●単位の認定

履修規程で定める成績評価で合格した授業科目に対して単位を認定している。

成績不振者には、補習を計画的に実施するとともに、学期末等節目の時期に、個人面談、三者面談等により成績・単位取得状況を説明し、双方納得のいく形で学習意欲や成績向上に取り組んでいる。

３．成績評価において、ＧＰＡ等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要） ●成績評価 開講する全ての授業科目を成績評価の対象としている。100 点を満点とし、100 点～80 点を「A」、79 点～70 点を「B」、69 点～60 点を「C」、59 点以下を「D」（不合格）と定めている。本成績評価基準に基づき、各期末試験後に全員に対して試験結果を通知するとともに、不合格者に対しては、個別に理解不十分と思われる内容と勉強方法等を助言し、再試験によりその成果を改めて評価している。また学年ごとに、履修科目の成績評価を点数化（100 点満点）し、全科目の合計点の平均を算出して、相対評価での下位４分の１を特定し成績分布状況を把握している。このことにより、特に素養・学力の低い学生へのフォローのあり方を検討して、全体としての学力の底上げに努力している。 ●客観的な指標の公表 成績の客観的な指標の算出方法をホームページで公開している。	
客観的な指標の算出方法の公表方法	学校ホームページ（https://dmr.ac.jp/sch/sch05/）学校案内の情報公開に掲載
４．卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） ●ディプロマ・ポリシー 「建学の精神」「教育理念」に則り、教育課程全科目の単位を修得した上で、以下の項目を満たす学生に卒業を認定し、専門士の称号を付与している。 １　態度：　社会や他者から必要な情報を収集し、相互の尊重のもとに、医療人として責任感と倫理感をもって行動することができる。 ２　知識：　医療人としての基本的知識に加え、リハビリ医療全般や臨床に関する専門的知識を身に付けている。 ３　技能：　社会や他者との適切なコミュニケーションを図りながら、リハビリの専門士としてふさわしい技能を身に付けている。 ４　医療活動：　人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献するために、リハビリの専門士として必要な実践的能力を身に付けている。 ５　自己研鑽：　医療の進歩に資するために、教育・研究を遂行する意欲、問題発見・解決能力を身に付けている。 ●卒業認定 各学科において、卒業に必要な単位数を修得している上で、かつ上記の卒業要件の確認行い、学校卒業判定会議において校長が判定している。 ●ディプロマ・ポリシー等の公表 ディプロマ・ポリシー及び進級・卒業認定に関する事項をホームページで公開している。また、学生便覧に掲載するとともに、学生に対してはクラス担任がホームルームの時間を活用して説明を行っている。	
卒業の認定に関する方針の公表方法	学校ホームページ（https://dmr.ac.jp/sch/sch05/）学校案内の情報公開に掲載

様式第２号の４－②【⑷財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第２号の４－①を用いること。

学校名	福岡天神医療リハビリ専門学校
設置者名	学校法人　都築学園

１．財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	学校のホームページの学校案内の情報公開（https://dmr.ac.jp/sch/sch05/）に掲載
収支計算書又は損益計算書	同上
財産目録	同上
事業報告書	同上
監事による監査報告（書）	同上

２．教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療分野	医療専門課程	理学療法学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	3,130 単位時間／単位	1,320 単位時間／単位	450 単位時間／単位	1,360 単位時間／単位	単位時間／単位	単位時間／単位
			3,130 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	106 人	0 人	6 人	3 人	9 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

●教育課程（カリキュラム）の編成

前年度の成果の検証を行い、改正の必要性を含み８月頃までに見直しを行う。洗い出された課題等を踏まえ、本校ＦＤ委員会の専門部会である教務委員会で、カリキュラム内容や授業方法等について検討を行い、内容を精査してその改善を図っている。

●授業計画書（シラバス）の策定

改正した教育課程に基づき、１２月頃に各科目担当教員等に対して、学校としての統制事項を含め要修正・整備内容等を通知して２月頃に完成させている。この際、確かな実力を身に付け、国家試験に合格できる実践的な内容構成に着意している。

●授業方法及び内容

基礎的科目から応用的科目へ発展するように編成した講義・演習・実習を適切に組み合わせ、努めて学生への参画意識を持たせる工夫を行っている。また、視覚教育、教具（教材）を有効に活用した分かり易い教育方法を工夫している。

成績評価の基準・方法
●授業科目に対する成績評価 　各学期末の定期試験でその達成度を評価するとともに、学習態度や修学状況を加味して総合的に判定している。科目ごとの評価方法は、授業計画書に記載した内容に基づき行う。100 点を満点とし、100 点～80 点を「A」、79 点～70 点を「B」、69 点～60 点を「C」、59 点以下を「D」（不合格）と定めている。また定期試験受験資格は、各科目総授業時間の 2/3 以上の出席を条件としている。やむを得ない理由により本試験を受験できなかった者には、追試験及び再試験の機会を与えるも、結果的に合格ラインに到達しない者は進級、卒業を認めていない。
卒業・進級の認定基準
●ディプロマ・ポリシー 「建学の精神」「教育理念」に則り、教育課程全科目の単位を修得した上で、以下の項目を満たす学生に卒業を認定し、専門士の称号を付与している。 １　態度：　社会や他者から必要な情報を収集し、相互の尊重のもとに、医療人として責任感と倫理感をもって行動することができる。 ２　知識：　医療人としての基本的知識に加え、リハビリ医療全般や臨床に関する専門的知識を身に付けている。 ３　技能：　社会や他者との適切なコミュニケーションを図りながら、リハビリの専門士としてふさわしい技能を身に付けている。 ４　医療活動：　人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献するために、リハビリの専門士として必要な実践的能力を身に付けている。 ５　自己研鑽：　医療の進歩に資するために、教育・研究を遂行する意欲、問題発見・解決能力を身に付けている。 ●進級認定 　進級は、学則に定める当該学年の全科目の単位を修得している者で、進級判定会議において校長が認めた者とする。 ●卒業認定 各学科において、卒業に必要な単位数を修得している上で、かつ上記のディプロマ・ポリシーの卒業要件を満たしている者として、卒業判定会議において校長が認めた者とする。
学修支援等
●クラス担任制による個別管理、指導の実施 ・各期末試験後には、必ず科目ごとの解答・解説を実施することにより、自分がどこを理解していないか等を認識させるように着意している。 ・成績不振者には、講義時間外に学習方法等のアドバイスをしている。また素養・学力の低い者には計画的に補習を実施している。 ●教育職員と事務職員の意思疎通や情報共有による学生指導

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22 人 （100%）	0 人 （　0%）	20 人 （　90.9%）	2 人 （　9.1%）

（主な就職、業界等）
医療機関・施設

（就職指導内容） ・就職説明会の実施 ・就職セミナー・労働条件セミナーの実施
（主な学修成果（資格・検定等）） 理学療法士
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
100 人	17 人	17%
（中途退学の主な理由） 学業不振、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・無断欠席等徴候の早期把握と保護者を含めた情報交換、面談の実施 ・学業不振者に対する計画的な補習等の実施		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士
医療分野		医療専門課程	作業療法学科		○		
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	3,405 単位時間／単位	1,710 単位時間/単位	630 単位時間/単位	1,065 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			3,405 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
120 人	105 人	0 人	7 人	4 人	11 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）
●教育課程（カリキュラム）の編成 前年度の成果の検証を行い、改正の必要性を含み８月頃までに見直しを行う。洗い出された課題等を踏まえ、本校ＦＤ委員会の専門部会である教務委員会で、カリキュラム内容や授業方法等について検討を行い、内容を精査してその改善を図っている。 ●授業計画書（シラバス）の策定 改正した教育課程に基づき、１２月頃に各科目担当教員等に対して、学校としての統制事項を含め要修正・整備内容等を通知して２月頃に完成させている。この際、確かな実力を身に付け、国家試験に合格できる実践的な内容構成に着意している。 ●授業方法及び内容 基礎的科目から応用的科目へ発展するように編成した講義・演習・実習を適切に組み合わせ、努めて学生への参画意識を持たせる工夫を行っている。また、視覚教育、教具（教材）を有効に活用した分かり易い教育方法を工夫している。

成績評価の基準・方法
●授業科目に対する成績評価 　各学期末の定期試験でその達成度を評価するとともに、学習態度や修学状況を加味して総合的に判定している。科目ごとの評価方法は、授業計画書に記載した内容に基づき行う。100 点を満点とし、100 点～80 点を「A」、79 点～70 点を「B」、69 点～60 点を「C」、59 点以下を「D」（不合格）と定めている。また定期試験受験資格は、各科目総授業時間の 2/3 以上の出席を条件としている。やむを得ない理由により本試験を受験できなかった者には、追試験及び再試験の機会を与えるも、結果的に合格ラインに到達しない者は進級、卒業を認めていない。
卒業・進級の認定基準
●ディプロマ・ポリシー 「建学の精神」「教育理念」に則り、教育課程全科目の単位を修得した上で、以下の項目を満たす学生に卒業を認定し、専門士の称号を付与している。 １　態度：　社会や他者から必要な情報を収集し、相互の尊重のもとに、医療人として責任感と倫理感をもって行動することができる。 ２　知識：　医療人としての基本的知識に加え、リハビリ医療全般や臨床に関する専門的知識を身に付けている。 ３　技能：　社会や他者との適切なコミュニケーションを図りながら、リハビリの専門士としてふさわしい技能を身に付けている。 ４　医療活動：　人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献するために、リハビリの専門士として必要な実践的能力を身に付けている。 ５　自己研鑽：　医療の進歩に資するために、教育・研究を遂行する意欲、問題発見・解決能力を身に付けている。 ●進級認定 　進級は、学則に定める当該学年の全科目の単位を修得している者で、進級判定会議において校長が認めた者とする。 ●卒業認定 　各学科において、卒業に必要な単位数を修得している上で、かつ上記のディプロマ・ポリシーの卒業要件を満たしている者として、卒業判定会議において校長が認めた者とする。
学修支援等
●クラス担任制による個別管理、指導の実施 ・各期末試験後には、必ず科目ごとの解答・解説を実施することにより、自分がどこを理解していないか等を認識させるように着意している。 ・成績不振者には、講義時間外に学習方法等のアドバイスをしている。また素養・学力の低い者には計画的に補習を実施している。 ●教育職員と事務職員の意思疎通や情報共有による学生指導

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
15 人 （100%）	0 人 （　0%）	13 人 （　86.7%）	2 人 （　13.3%）

（主な就職、業界等）
医療機関・施設

（就職指導内容）
・就職説明会の実施
・就職セミナー・労働条件セミナーの実施

（主な学修成果（資格・検定等））
作業療法士

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
85 人	7 人	8.2%

（中途退学の主な理由）
学業不振、進路変更

（中退防止・中退者支援のための取組）
・無断欠席等徴候の早期把握と保護者を含めた情報交換、面談の実施
・学業不振者に対する計画的な補習等の実施

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療分野	医療専門課程	鍼灸学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	2,670 単位時間／単位	1,980 単位時間/単位	単位時間/単位	690 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2,670 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90 人	80 人	0 人	6 人	3 人	9 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

●教育課程（カリキュラム）の編成
　前年度の成果の検証を行い、改正の必要性を含み８月頃までに見直しを行う。洗い出された課題等を踏まえ、本校ＦＤ委員会の専門部会である教務委員会で、カリキュラム内容や授業方法等について検討を行い、内容を精査してその改善を図っている。
●授業計画書（シラバス）の策定
　改正した教育課程に基づき、１２月頃に各科目担当教員等に対して、学校としての統制事項を含め要修正・整備内容等を通知して２月頃に完成させている。この際、確かな実力を身に付け、国家試験に合格できる実践的な内容構成に着意している。
●授業方法及び内容
　基礎的科目から応用的科目へ発展するように編成した講義・演習・実習を適切に組み合わせ、努めて学生への参画意識を持たせる工夫を行っている。また、視覚教育、教具（教材）を有効に活用した分かり易い教育方法を工夫している。

成績評価の基準・方法
●授業科目に対する成績評価 各学期末の定期試験でその達成度を評価するとともに、学習態度や修学状況を加味して総合的に判定している。科目ごとの評価方法は、授業計画書に記載した内容に基づき行う。100 点を満点とし、100 点～80 点を「A」、79 点～70 点を「B」、69 点～60 点を「C」、59 点以下を「D」（不合格）と定めている。また定期試験受験資格は、各科目総授業時間の 2/3 以上の出席を条件としている。やむを得ない理由により本試験を受験できなかった者には、追試験及び再試験の機会を与えるも、結果的に合格ラインに到達しない者は進級、卒業を認めていない。
卒業・進級の認定基準
●ディプロマ・ポリシー 「建学の精神」「教育理念」に則り、教育課程全科目の単位を修得した上で、以下の項目を満たす学生に卒業を認定し、専門士の称号を付与している。 １　態度：　社会や他者から必要な情報を収集し、相互の尊重のもとに、医療人として責任感と倫理感をもって行動することができる。 ２　知識：　医療人としての基本的知識に加え、リハビリ医療全般や臨床に関する専門的知識を身に付けている。 ３　技能：　社会や他者との適切なコミュニケーションを図りながら、リハビリの専門士としてふさわしい技能を身に付けている。 ４　医療活動：　人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献するために、リハビリの専門士として必要な実践的能力を身に付けている。 ５　自己研鑽：　医療の進歩に資するために、教育・研究を遂行する意欲、問題発見・解決能力を身に付けている。 ●進級認定 進級は、学則に定める当該学年の全科目の単位を修得している者で、進級判定会議において校長が認めた者とする。 ●卒業認定 各学科において、卒業に必要な単位数を修得している上で、かつ上記のディプロマ・ポリシーの卒業要件を満たしている者として、卒業判定会議において校長が認めた者とする。
学修支援等
●クラス担任制による個別管理、指導の実施 ・各期末試験後には、必ず科目ごとの解答・解説を実施することにより、自分がどこを理解していないか等を認識させるように着意している。 ・成績不振者には、講義時間外に学習方法等のアドバイスをしている。また素養・学力の低い者には計画的に補習を実施している。 ●教育職員と事務職員の意思疎通や情報共有による学生指導

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
14 人 （100%）	0 人 （　0%）	10 人 （　71.4%）	4 人 （　28.6%）

（主な就職、業界等）
鍼灸院・整骨院

（就職指導内容）
・就職説明会の実施
・就職セミナー・労働条件セミナーの実施

（主な学修成果（資格・検定等））
はり師・きゅう師

（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状

年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
81 人	10 人	12.3%

（中途退学の主な理由）
学業不振

（中退防止・中退者支援のための取組）
・無断欠席等徴候の早期把握と保護者を含めた情報交換、面談の実施
・学業不振者に対する計画的な補習等の実施

分野	課程名	学科名	専門士	高度専門士
医療分野	医療専門課程	柔道整復学科	○	

修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
３年	昼	2,760 単位時間／単位	1,980 単位時間/単位	単位時間/単位	780 単位時間/単位	単位時間/単位	単位時間/単位
			2,760 単位時間／単位				

生徒総定員数	生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数
90 人	64 人	0 人	6 人	11 人	17 人

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）

●教育課程（カリキュラム）の編成
　前年度の成果の検証を行い、改正の必要性を含み８月頃までに見直しを行う。洗い出された課題等を踏まえ、本校ＦＤ委員会の専門部会である教務委員会で、カリキュラム内容や授業方法等について検討を行い、内容を精査してその改善を図っている。

●授業計画書（シラバス）の策定
　改正した教育課程に基づき、１２月頃に各科目担当教員等に対して、学校としての統制事項を含め要修正・整備内容等を通知して２月頃に完成させている。この際、確かな実力を身に付け、国家試験に合格できる実践的な内容構成に着意している。

●授業方法及び内容
　基礎的科目から応用的科目へ発展するように編成した講義・演習・実習を適切に組み合わせ、努めて学生への参画意識を持たせる工夫を行っている。また、視覚教育、教具（教材）を有効に活用した分かり易い教育方法を工夫している。

成績評価の基準・方法
●授業科目に対する成績評価 　各学期末の定期試験でその達成度を評価するとともに、学習態度や修学状況を加味して総合的に判定している。科目ごとの評価方法は、授業計画書に記載した内容に基づき行う。100 点を満点とし、100 点～80 点を「A」、79 点～70 点を「B」、69 点～60 点を「C」、59 点以下を「D」（不合格）と定めている。また定期試験受験資格は、各科目総授業時間の 2/3 以上の出席を条件としている。やむを得ない理由により本試験を受験できなかった者には、追試験及び再試験の機会を与えるも、結果的に合格ラインに到達しない者は進級、卒業を認めていない。
卒業・進級の認定基準
●ディプロマ・ポリシー 「建学の精神」「教育理念」に則り、教育課程全科目の単位を修得した上で、以下の項目を満たす学生に卒業を認定し、専門士の称号を付与している。 １　態度：　社会や他者から必要な情報を収集し、相互の尊重のもとに、医療人として責任感と倫理感をもって行動することができる。 ２　知識：　医療人としての基本的知識に加え、リハビリ医療全般や臨床に関する専門的知識を身に付けている。 ３　技能：　社会や他者との適切なコミュニケーションを図りながら、リハビリの専門士としてふさわしい技能を身に付けている。 ４　医療活動：　人々の健康増進、公衆衛生の向上に貢献するために、リハビリの専門士として必要な実践的能力を身に付けている。 ５　自己研鑽：　医療の進歩に資するために、教育・研究を遂行する意欲、問題発見・解決能力を身に付けている。 ●進級認定 　進級は、学則に定める当該学年の全科目の単位を修得している者で、進級判定会議において校長が認めた者とする。 ●卒業認定 　各学科において、卒業に必要な単位数を修得している上で、かつ上記のディプロマ・ポリシーの卒業要件を満たしている者として、卒業判定会議において校長が認めた者とする。
学修支援等
●クラス担任制による個別管理、指導の実施 ・各期末試験後には、必ず科目ごとの解答・解説を実施することにより、自分がどこを理解していないか等を認識させるように着意している。 ・成績不振者には、講義時間外に学習方法等のアドバイスをしている。また素養・学力の低い者には計画的に補習を実施している。 ●教育職員と事務職員の意思疎通や情報共有による学生指導

卒業者数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）

卒業者数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
6 人 （100%）	1 人 （　16.7%）	4 人 （　66.7%）	1 人 （　16.7%）

（主な就職、業界等）
整骨院

（就職指導内容） ・就職説明会の実施 ・就職セミナー・労働条件セミナーの実施
（主な学修成果（資格・検定等） 柔道整復師
（備考）（任意記載事項）

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52 人	10 人	19.2%
（中途退学の主な理由） 学業不振、進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） ・無断欠席等徴候の早期把握と保護者を含めた情報交換、面談の実施 ・学業不振者に対する計画的な補習等の実施		

②学校単位の情報

ａ）「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
理学療法学科	200,000 円	800,000 円	500,000 円	
作業療法学科	200,000 円	800,000 円	500,000 円	
鍼灸学科	200,000 円	800,000 円	400,000 円	
柔道整復学科	200,000 円	800,000 円	400,000 円	
修学支援（任意記載事項）				

ｂ）学校評価

自己評価結果の公表方法
（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法） https://dmr.ac.jp/sch/sch05/
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制）
１　方針 学校自ら行う「自己評価結果」の客観性・透明性を担保するため、関係業界、高等学校等、地域住民、卒業生、保護者等から選出し構成された、学校関係者評価委員からその結果について意見を聴き、その内容を十分に踏まえた教育活動及び学校運営の質の向上を図る。 ２　主な評価項目 ・教育理念（理念、目的、育成人材像） ・学校運営（運営方針、事業計画、運営組織、人事・給与制度等） ・教育活動（教育課程の編成、目標設定、教育方法・評価、成績評価等） ・学修成果（就職率、資格の取得率、退学率、卒業生の社会的評価等） ・学生支援（修学支援、就職等進路、中途退学への対応、学生相談等） ・教育環境（施設・設備、学外学習、インターンシップ等） ・学生の募集と受入れ（受け入れ方針、募集活動、入学選考、学生納付金等） ・財務（財政的基盤、予算・収支計画等） ・法令等の遵守（関係法令、設置基準の遵守、個人情報の保護等） ・社会貢献・地域貢献（社会貢献、地域貢献、ボランティア活動等） ３　評価委員会の構成（合計６名） 企業関係者×２名 地域関係者×１名 高校関係者×１名 学生保護者×１名 学校卒業者×１名

４　評価結果の活用方法

２月～３月に実施する自己点検評価結果を客観的に検証するために、５月に開催される学校関係者委員会において、委員からの意見や助言を求めている。６月以降、委員からの意見等に基づき、教育活動及び学校運営へ具体的に活用している。この際、改善方策等の実行責任者は、各学科については学科長、学校事務については事務長、校務運営全般については校長とする。

５　学校関係者評価の公表

６月頃にホームページで公開している。

学校関係者評価の委員

所属	任期	種別
御所ヶ谷ホームクリニック　院長 福岡市中央区医師会　元会長	令和３年11月１日 ～令和５年10月31日	企業
有限会社いきいきリハビリケア 代表取締役	〃	企業
福岡市中央区自治会　会長	〃	地域住民
福岡第一高等学校　教諭	〃	高校
第１４・１７期 作業療法学科学生保護者	〃	保護者
第４期作業療法学科卒業生	〃	卒業生

学校関係者評価結果の公表方法

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）
https://dmr.ac.jp/sch/sch05/

第三者による学校評価（任意記載事項）

令和３年10月、11月に理学療法学科と作業療法学科の教育評価調査を受け、審査結果「認定」を受けた。
（有効期間：令和４年４月１日～令和９年３月31日）

ｃ）当該学校に係る情報

（ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法）
https://dmr.ac.jp/sch/sch05/